

高・超高リスク前立腺癌への温熱放射線治療

温度パラメーターや皮下脂肪厚の PSA 非再発期間との関連

産業医科大学病院

放射線治療科 矢原勝哉、大栗隆行、戸村恭輔

放射線科 興梶征典

泌尿器科 藤本直浩

高リスクおよび超高リスク前立腺癌に対する温熱放射線療法の治療効果を評価し、より高い温度パラメーターによる温熱療法が PSA 非再発期間へもたらす影響を検討する。根治的放射線治療を施行された高リスクまたは超高リスク前立腺癌患者のうち腫瘍内温度を推測するための直腸腔内温度測定された総 75 例を遡及的に検討した。より高い温度パラメーター (CEM43°C T90, T90, T50) で加温された症例において有意な PSA 非再発率の改善を認めた。CEM43°C T90 は、骨盤領域の腹側皮下脂肪厚と有意な負の相関を認めた。前立腺癌の温熱放射線治療を施行すべき患者選択要件として、骨盤領域の皮下脂肪厚が薄い点やテスト加温で温度パラメーターの高値が得られる点を考慮すべきと思われた。